



宮司プレス 第百七十七号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年九月 十日

◇宮司の柴田です。 九月は、長月(ながつき)

といいますが、古来(こらい)から「夜長月(よながつき)」の略であるとの説が有力です。 つまりは、秋の夜長の頃という意味です。 また、「長月とは、夜初めて長きをおぼゆるなり。 実に長きは冬なれども、夏の短きに対して、長きを知るゆえなり」という説明もあります。 江戸時代の国学者(こくがくしや)である賀茂真淵(かものみづみ)は、稲作の収穫の時期を迎えて、「稻刈月(いねかりづき)」の「い」と「り」が略され、ネカツキ→ナカツキ→ナガツキになったという説を唱えました。 やはり、江戸時代の国学者である本居宣長(もとのおり)のりながは、「稻熟月(いねあがりつき)」が、訛(なま)で、ナガツキになったという説を唱えられました。 諸説あるようですが、たしかに、朝明(あさあ)けの時間が遅くなり、長い夜は冬にちがいがありませんが、夏にくらぶれば長くなっています。

◇先月号や今月号の宮司プレスのB面(裏面です)に、「宮司動静(きょうじどうせい)」と

いうことで、活動報告活動予定を記載(ききい)していますが、神職養成講習会(しんしよくようせいこうしゅうかい)の「神社神道概説II」という科目の講義を担当させていただきました。 昨年はコロナ禍で、開催が見送られました。 本年は、感染防止対策に万全を施(ほどこ)して、県内在住者に限(かぎ)って、しかも少人数での開催の運びとなったのです。 コロナ禍となって一年半、私共の日常生活も「行動変容」、神社の祭典行事も「祭典変容」でありますが、御多聞(ごたぶん)にもれず、講習会も「講習会变容、講義変容」となりました。 講師の出講回数を減らすために、午前午後、終日(しゅうじつ)の集中講義が、二日も組まれていました。 一時限五十分の講義が、全部で十八時限、時間にして十五時間の講義ですが、通常ですと、二十六時限の講義ですから、八時限、六時間四十分も減らされた「講義変容」となったわけです。 「教える」ことは、「学ぶこと」、

したがって、講義内容や教案(きょうあん)さらに、配布資料直しが必要となり、久しぶ

りに勉強に勤しんだ夏でした。 吉田松陰先生は、「教授は能(あたわ)わざるも、君等と共に講究(こうきゅう)せん」という、共に学ぶという姿勢で、松下村塾の塾生に向き合われました。 さらに、「必ず真に教ふべきことありて師となり、真に学ぶべきことありて師とすべし」と、「講孟余話(こうもうよわ)」に述べられています。 師弟共に、「何のために学ぶのか」という学問への「志(こころざし)」が大切だと論(さと)されているのです。 講師をつとめた私の力足らずで、悪戦苦闘(あくせんくとう)しながらも、講習生(こうしゅうせい)の日本人の伝統的信念の別名である神社神道を極(きま)む、神職になるのだという、ゆるぎない「志」のために、共に学んだ、晩夏、初秋の講習会で

した。 江戸時代、越後の国のお殿様、上杉鷹山(うえずぎ ようざん)さんの師匠(ししょう)であられた、儒学者(じゅがくしや)の細川平州(ほそかわへいしゅう)さんは、「学問と今日(こんにち)とは二途(にと)にならざるように」と論(さと)されました。 つまり、学問したことで現実とが別々にならぬようにしなければならぬということですね。 この講習会を終了し、神職になるであろう講習生、これからの未来が、「二途」にならないよう、大躍進を期するものです。

◇さて、一年で二番目に美しいとされる「お月見」、何という月で、いつ見ることが出来るかご存知ですか。もちろん、一番美しいとされる月は、「仲秋の名月」で、旧暦の八月十五日で、今年九月二十一日です。一年で二番目に美しいとされる月は、「十三夜月(じゅうさんやづき)」で、旧暦の九月十三日、今年、十月十八日です。昔から、この両方の月を見て、愛(め)でないと「片見月(かたみつき)」といって縁起が悪かったそうです。「仲秋の名月」は、音楽を奏で、宴を催す宮廷貴族の年中行事でした。それに対して、「十三夜月」は、月に宿るとされた水の神様に、里芋や果物等をお供えし、感謝する、庶民の信仰の行事でした。その感謝を捧げる行事の、「十三夜月」を忘れないために、「片見月」といったのだそうです。お月見のお供えで欠かせないのが、「お団子」と「スキ」です。この「お団子」は、「お芋(いも)」にみたてであるそうですし、「すき」は、黄金色の頭を垂らす、豊年満作の稲穂のことだそうです。お月見は、秋の夜長に、豊かな実りをあらかじめお祝いし、あらためて、お祈りを捧げる、「予祝(よしゆく)」の行事だったことを忘れてはなりません。「片見月」ならぬ、「片手落ち」となってしまうです。

◇坂村真民(さかむら しんみん)さんの詩に、「影あり 仰げば月あり」とあります。不安

や恐怖のつるるばかりの日々ではありますが、美しい月の光で、不安や恐怖の心が、清められます「処方箋」となりますことをお祈り申し上げます。ルーズベルト大統領は、

「最初に月を目指せ。なぜなら、たとえ取り損(そこ)ねても、そこから、星を目指すことができる。」、なんとスケールの大きな、おおらかで、気持ちも楽になるような、前向きな言葉を残しておいでです。コロナの治療薬が完成する年末年始には、今と違った景色(けしき)や雰囲気(ふんいき)になっている事を信じて、「仰げば月あり」、希望を見失うことなく過(こ)して参りたいものです。ご自愛をお祈り申し上げます。

◇九月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭

*九月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭

*九月一日

▼若宮神社例祭

*九月三日

▼中秋の花手水

*九月十八日〜二十一日

▼朝粥会

*九月二十一日

▼秋季祖霊祭

*九月二十三日

▼下関青年神職会正式参拝

*九月二十九日

◇九月の宮司動静予定

▼彦島八幡宮関係団体

□責任役員常任総代会

*九月一日

□奉賛会行事委員会

*九月十三日

▼山口県神社庁神職養成講習会

□講義(神社神道概説Ⅱ)

*九月二日(八コマ)

□成績判定会議、閉講式

*九月十日

□神社庁役員会

□神社庁諸問題対委員会

□神社庁過疎地域活性化指定神社支援委員会

*九月十日

□神社庁教化委員会

□神社庁神宮大麻増頒布推進委員会

*九月二十七日

▼教誨活動

□集合教誨男子 *九月十三日

▼人権擁護委員

□人権相談(法務局人権相談室勤務)

*九月二十八日

▼その他

□迫町自治会役員会 *九月二十二日